両肩に生じた基底細胞癌の1例

両肩に生じた基底細胞癌の1例

橋本 学^{*1} 田口 理史^{*1} 鈴木 正^{*1}
土田 哲也^{*1} 永井 秀之^{*2}

A case of basal cell carcinoma on the bilateral shoulders

Manabu HASHIMOTO ^{*1}, Masahito TAGUCHI ^{*1}, Tadashi SUZUKI ^{*1}, Tetsuya TSUCHIDA ^{*1}, Hideyuki NAGAI ^{*2}

^{*1} Department of Dermatology, Saitama medical school

^{*2} Division of Dermatology, Asakadai Central General Hospital

We report a 45-year-old white man with scaly erythematous plaques on the bilateral shoulders. The plaque on the left shoulder was 28 × 22mm in diameter with smooth surface and mild itching. The plaque on the right shoulder had a similar appearance and was 35 × 22mm in diameter. Eczema was suspected of the clinical feature by the former dermatologist and steroid ointment therapy was started. But he was not cured. The findings of each biopsied specimen showed superficial basal cell carcinoma. We performed wide local excision. The excised specimens had identical histologic features. [*Skin Cancer (Japan)* 2003 ; 18 : 316-319]

Key words: Bilateral, Superficial basal cell carcinoma, Shoulder, BCC

はじめに

基底細胞癌は多彩な臨床像を呈し、皮膚悪性腫瘍の中でも頻度の高い疾患である。日本人症例では単発性の色素性基底細胞癌であることが多いが、白人例においては色素沈着は稀であり多発型が多いとされている。今回我々は、両肩に生じた無色素性基底細胞癌の白人症例を経験したので報告する。

症 例

患 者：45 歳，白人男性
初 診：2002 年 11 月 8 日
家族歴：特記事項なし。
既往歴：急性肝炎，肺結核（排菌はなく近医で follow されている）
現病歴：1998 年頃，両肩の直径数ミリの小丘疹に気付くが放置していた。2002 年 1 月頃より徐々に拡大，紅色局面となったため近医を受診した。湿疹の疑いにてステロイドを外用されるが効果なく，基底細胞癌を疑われ両肩皮疹

^{*1} 埼玉医科大学皮膚科学教室

^{*2} 朝霞台中央総合病院皮膚科

の生検を施行される。ともに表在型基底細胞癌と診断され当科を紹介受診した。

現 症：両肩に軽度癢痒感を伴う紅色皮疹を認めた。左肩は $28 \times 22\text{mm}$ の表面平滑な紅色局面であった (図 1 a)。周囲に直径数 mm までの同様な局面がみられた (図 1 b)。右肩には $35 \times 22\text{mm}$ の落屑を有する軽度萎縮性の紅色局面が存在 (図 2 a, b)。左右肩病変部のダーモスコープ所見では、白色の鱗屑を付し、わずかに血管拡張を認めるほか、基底細胞癌に特徴的な所見は得られなかった。また、毛髪、顔貌、骨格に異常はなく、手掌、足底に小陥凹は認めず基底細胞母斑症候群、Bazex 症候群等の遺伝性疾患は否定的であった。

検査所見：左右肩病変部エコーでは、ともに血流信号は検出されなかった。胸部 X 線で

肺野に結節陰影を認めた。

病理組織学的所見：左肩紅色局面：不規則な肥厚した表皮と真皮上層に細胞浸潤がある (図 3 a)。強拡大像において表皮から下方に連続して基底細胞様細胞の蕾状の増殖がみられる (図 3 b)。右肩紅色局面：表皮の肥厚および真皮上層に細胞浸潤を認める (図 4 a)。強拡大像では表皮から連続性に異型のある基底細胞様細胞が胞巣を形成し、柵状配列を示している (図 4 b)。以上の所見より両肩紅色局面を表在型基底細胞癌と診断した。

図 1 a. 左肩臨床像
 $28 \times 22\text{mm}$ の表面平滑な紅色局面

図 2 a. 右肩臨床像
 $35 \times 22\text{mm}$ の紅色局面

図 1 b. 左肩臨床像拡大所見
紅色局面の周囲に直径数 mm までの同様な局面が認められる

図 2 b. 右肩臨床像拡大所見
落屑を付し軽度萎縮性である

図 3 a . 左肩紅色局面病理組織弱拡大像
肥厚した表皮と真皮上層に細胞浸潤を認める

図 4 a . 右肩紅色局面病理組織弱拡大像
表皮の肥厚および真皮上層に細胞浸潤がある

図 3 b . 左肩紅色局面病理組織拡大像
表皮から下方に連続して基底細胞様細胞の蕾状の増殖を認める

図 4 b . 右肩紅色局面病理組織拡大像
表皮から連続性に異型のある基底細胞様細胞が胞巣を形成し、柵状配列を示している

治療および経過：2002年11月19日、局所麻酔下に両肩紅色局面の切除縫縮を施行し、経過観察中である。

考 察

基底細胞癌は白人にとって最もありふれた原発性皮膚悪性腫瘍であり、その発症頻度は黄色人種、黒人に比して高い¹⁾。日本人例では黒褐色の小結節としてみられることが多いが、白人例において色素沈着がみられるのは2～5%程度である²⁾。基底細胞癌は極めて多彩な臨床像を呈することが特徴であり、特に表在型基底細胞癌は、背部、四肢などに発生しやすいうえに落屑を伴う紅色で萎縮性の局面を呈し、ボーエン病、炎症性疾患との鑑別が問題となる³⁾。基

底細胞癌の臨床的な正診率は、大学スタッフでは70%、皮膚科開業医では65%、レジデントでは64%と報告されている³⁾。自験例では紅色局面として存在し、さらに両肩に対称性を認め、軽度癢痒感を伴っていたため、まず第一に基底細胞癌とは考えにくい臨床像であった。

表在型基底細胞癌は、頭頸部に単発する傾向のある他の組織型と比べ、しばしば躯幹四肢に生じ多発することが多く、若年発症といった特徴がある⁴⁾。本邦より基底細胞癌の発症頻度の高い欧米では、基底細胞癌患者の41%が生涯にわたり2カ所以上に多発するとDahlらは報告している⁵⁾。基底細胞癌が多発する誘因として放射線照射、砒素摂取、色素性乾皮症、基底細胞母斑症候群、日光曝露、免疫抑制状態などが知られている。しかしながら特に誘因が見当

たらないことが最も多く、本邦報告例では42.6%とされている⁶⁾。表在型基底細胞癌に限ると発症誘因として断続的な日光曝露の関与が示唆されている⁷⁾。一方、腋窩、陰囊、大陰唇、肛門周囲、爪下にBCCが発生することがありこれらの部位は、基底細胞癌の発生に関して紫外線が危険因子とは考えられない⁸⁾。自験例では放射線照射歴、砒素摂取歴はなく、遺伝性疾患も否定的であった。ランニングシャツの着用により両肩に断続的な日光曝露があったため、対称性に基底細胞癌が発症したと推測した。さらに数年前に肺結核の既往があり、何らかの免疫能低下状態が存在し、基底細胞癌の発症に関与した可能性があるのではないかと考えた。

文 献

- 1) Mackie RM : Epidermal Skin Tumours, Champion RH, Burton JL, Ebling FJG : Textbook of Dermatology, Blackwell Scientific Publication, Oxford, 1992, p1488-1495
- 2) Weedon D, Strutton G : SKIN Pathology. Second ed, CHURCHILL LIVINGSTONE, 2002, p765-802
- 3) Presser SE, Taylor JR : Clinical diagnostic accuracy of basal cell carcinoma. J Am Acad Dermatol, 16 : 988-990, 1987
- 4) McCormack CJ, Kelly JW, Dorevitch AP : Differences in Age and Body Site Distribution of the Histological Subtypes of Basal Cell Carcinoma. Arch Dermatol, 133 : 593-596, 1997
- 5) Dahl E, Åberg M, Rausing A, et al : Basal Cell Carcinoma : An Epidemiologic Study in a Defined Population. Cancer, 70 : 104-108, 1992
- 6) 石崎康子, 岡田裕子, 岡田 理, 他 : 多発性表在型基底細胞癌の1例, 皮膚臨床, 43 : 657-660, 2001
- 7) Bastiaens MT, Hoefnagel JJ, Bruijn JA, et al : Differences in Age, Site Distribution, and Sex Between Nodular and Superficial Basal Cell Carcinomas Indicate Different Types of Tumors. J Invest Dermatol, 110 : 880-884, 1998
- 8) 小野友道, 萱島研一, 若杉正司 : 基底細胞癌, 玉置邦彦編 : 最新皮膚科学大系, 12, 中山書店, 東京, 2002, p82-98